母校をたずねる

「今」につながる 礎築く

県立浦和高校 5

宇宙飛行士 若田光一さん 1981年度卒

約120年の歴史がある埼玉県立浦和高校。長い歴史の中で、引き継がれてきた理念の一つに「尚文昌武」がある。宇宙飛行士の若田光一さん(52)＝1981年度卒＝は滞在した国際宇宙ステーション(ISS)に、この4文字を記した旗を持参した。若田さんに、野球に熱中した高校時代の思い出などを聞いた。【森有正】

宇宙航空研究開発機構（JAXA）の若田光一さん＝茨城県つくば市のJAXAで

わかた・こういち　1963年生まれ。89年に九州大大学院を修了し、日本航空に入社。92年に宇宙飛行士の候補に選ばれる。96年にスペースシャトルで初飛行、2014年に日本人で初めて国際宇宙ステーション（ISS）の船長に就任した。現在は主に、ISSの運用などで関係各国との総合調整をするISSプログラムマネジャーを務める。

子どもの頃、アポロ11号が人類で初めて月面に着陸しました。自宅のテレビでその映像を見て、衝撃を受けました。大きくなるにつれ、「宇宙飛行士は難しいかもしれないけれど、できたら飛行機に携わる仕事ができたら」という気持ちが強くなりました。将来につながる理系の科目や英語をしっかり学べる環境をと思い、浦高に入学しました。

高校時代は、甲子園を目指して野球部に入部し、野球中心の生活でした。当時の中島潤一監督から、練習時や試合前に「野球で大切なのは、集中力、洞察力、チームワーク」と指導されました。ポジションがキャッチャーだったこともあり「常に周りをよく見て、相手のことを考えろ」と言われたことを覚えています。

野球部ではレギュラーにはなれなかったけれど、素晴らしい経験ができました。今振り返ると、中島監督の教えは、宇宙飛行士にとって重要な要素ばかり。集中力を持ち、次の状況を想定しながら行動すること。緊張が高まる中で本番で実力を発揮する力など、現在にもつながる大切なことを教えていただきました。

他には、英語の弁論大会に向けて懸命に取り組んだことが思い出に残っています。海外からの留学生が1人いて、相談に乗ってもらいました。親しくなると、スピーチ以外の、外国人のものの考え方などを知る機会を得ました。積極的にコミュニケーションをする大切さも知りました。宇宙での仕事は、多くの人がさまざまな立場で関わっています。先入観を持たず、いろいろな人と接点を持つことの大切さを自然と学んだ気がします。

野球部や日々の学習、多くの学校行事など、浦高での日々は充実していました。忙しい中、自分の目標を定め、それを実現するためには、どうすればよいのか、学習と部活、学校行事とのバランスなども意識していました。そのような意識を持つことは、今後、社会に羽ばたく現役の生徒さんの役にも立つはずです。

浦高の理念である「尚文昌武」の旗を2009年、宇宙に持っていきました。浦高精神を表すこの言葉を多くの人に知ってもらいたかったし、高校時代の経験があったからこそ、今の自分があると感じていたからです。

在校生の皆さんには浦高精神で興味のアンテナを広げ、いろいろなことに挑戦してほしいです。まず自分は何に興味があるのか、自分を発見することが大切です。目標を明確にすることで、しなければいけないことが定まります。失敗もあるかもしれませんが、自分を信じ、自分の成長を確信できる目標を設けることで、乗り越えることができます。私もそうやって目標をクリアしていきました。

私はこれまで4回宇宙に行きました。機会に恵まれたら、また行きたいですね。海外には、60代で宇宙に行った飛行士がいます。これからもチャレンジは続けたいですね。

「三兎追え」も求められ

「尚文昌武」理念大切に

宇宙から持ち帰った旗を生徒らにかざす若田光一さん＝さいたま市の浦和高校で2010年11月15日、町田結子撮影

若田さんが宇宙に持っていった旗に書かれていた「尚文昌武」の言葉は、浦和高が目指す教育理念。「文を尚び、武を昌んにす」と読み下し、一般に使われる「文武両道」とほぼ同じ意味を持つ。

同校の創立100年記念誌は、2代目校長の藤井宣正氏（1897～1900年に在任）が考えたオリジナルの四字熟語である可能性が高いと記している。あまり使われない時期もあったが、最近は各運動部が独自にそろえるTシャツなどに「尚文昌武」の4文字を入れるなど、生徒や学校関係者が積極的に用い、その理念を大切にしている。

同校が「尚文昌武」と並ぶ理念としているのが、「少なくとも三兎を追え」だ。一般には「二兎を追う者は一兎をも得ず」といわれるが、浦和高の生徒は「勉強、行事、部活」の三兎を追うことを求められる。学校生活は多忙だが、友だちと助け合い、充実した日々を送る。多くの卒業生が「仲間意識が強く、高校時代の友人関係は一生続く」と語る。

＝次回は5月13日に掲載します

卒業生「私の思い出」募集

県立浦和高校（旧制含む）の卒業生の皆さんから「私の思い出」を募集します。300字程度で学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などをお書きください。卒業年度、氏名、年齢、職業、住所、電話番号、あればメールアドレスを明記のうえ、〒100―8051、毎日新聞地方部首都圏版「母校」係（住所不要）へ。メールの場合はshuto@mainichi.co.jpへ。いただいた「思い出」は、毎日新聞の紙面やニュースサイトで紹介することがあります。紙面に掲載の場合は記念品を差し上げます。